

2025年5月23日

2012年1月から2024年12月までに
産業医科大学病院にて未熟児網膜症の治療を受けられた
患者さんとそのご家族へのお知らせ

産業医科大学病院 小児科では、下記の臨床研究を産業医科大学臨床研究審査委員会の審査を受け、学長の承認のもと実施いたしますので、研究の趣旨をご理解いただきご協力をお願い致します。

この研究の実施にあたっては患者さんの新たな負担(費用や検査など)は一切ありません。また個人が特定されることのないように患者さんのプライバシーの保護には最善を尽くします。

この研究の計画や研究の方法について詳しくお知りになりたい場合や、この研究にカルテ情報を利用することを了解いただけない場合などは、下記の「問い合わせ先」へご連絡ください。ご連絡がない場合には、同意をいただいたものとして研究を実施させていただきます。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

【研究課題名】

硝子体手術を実施している医療機関における最重症未熟児網膜症危険因子の解明に向けた後方視的研究

【研究期間】

研究機関の長の許可日～2025年12月31日

【研究機関】

産業医科大学

【研究の背景と目的・意義】

未熟児網膜症(ROP)は、未熟児で、まだ発達途上の眼球内で網膜血管が異常増殖する病気です。網膜血管は胎齢14週頃より発生を始め、枝分かれして成長して30週で完成するのですが、未熟児で出生して安定した母体から急激に環境が変化すると、網膜の血管は異常な方向に増殖します。これが進行すると、網膜を牽引して網膜剥離を起こし、重篤な視力障害、時には失明にいたりします。ROPは多因子疾患であり、早産や酸素投与といった複数の要因がその発症に関与しています。重症化のリスク要因として、輸血、長期人工呼吸管理、敗血症、脳室内出血、経腸栄養の

遅延などが挙げられていますが、国内外においても失明リスクが高い最重症 ROP に特化したリスク因子に関する報告は十分ではありません。

[目的]

今回の研究では、最重症 ROP の危険因子を明らかにし、重症化予防を視野に入れた適切な出生前からの介入および出生後の管理方法の確立を目指しております。

[意義]

重症化因子を解明することで、重症化予防を念頭に、適切な出生前からの治療介入、出生後の管理方法を構築することが期待できます。

【研究の方法】

1. 本研究では、対象児の臨床経過について、以下の方法で後方視的に検討を行います。
2. 研究の対象 2012 年 1 月 1 日～2024 年 12 月 31 日に産業医科大学病院 NICU に入院し、経過中に ROP Stage2 以上まで増悪した在胎 32 週未満、または出生体重 1500g 未満の児
3. 研究に用いる情報の種類
情報: 周産期背景に関する情報(在胎週数、出生体重、性別、多胎妊娠の有無、Apgar score 等)、治療経過に関する情報(人工呼吸管理期間、修正 36 週時点での酸素投与の有無等)、疾患および合併症の有無等

【研究組織】

・研究責任者: 眞鍋 舜彦 産業医科大学病院 小児科 診療助教
TEL: 093-691-7254 FAX: 093-691-9338

・研究分担者: 深野 玲司 産業医科大学医学部小児科学 教授
菅 秀太郎 産業医科大学医学部小児科学 助教
TEL: 093-691-7254 FAX: 093-691-9338

研究事務局、統計解析

・研究事務局、データ管理者: 眞鍋 舜彦 産業医科大学病院 小児科 診療助教
〒807-8555 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1 番 1 号
TEL: 093-691-7254 FAX: 093-691-9338
E-mail: mnbtooshi7663@med.uoeh-u.ac.jp